

# 農業を体験して

## みんなで協力してできた米作り

島内小学校5年

神谷 璃音

私たちは、今年の5月から10月まで、地域の浜さんから田んぼを借りて米作りを体験しました。私にとって全てが初めての体験でしたが、特に楽しかったのが、5月の「どろ遊び」です。

どろになれるために5月に「どろ遊び」をしました。最初はどろの感じが分からなくて「どういう感じなのかな。」と思いながら田んぼに入りました。入ったら少し冷たくて、変な感じがしました。次に歩こうとしたら、足が思うように動かなくて、重く感じました。けどずっと歩いているとなれてきて、みんな走ったりして遊んでいました。どろを持ってみたら、とてもやわらかかったです。みんな服はどろだらけで、中には寝転がる人もいて全身どろまみれの人もいました。この泥遊びはすごく楽



泥に親しむ子どもたち

しかったです。このどろ遊び体験のおかげで、その後の「田植え」の時には、どろに足をあまりとられずに植えることができました。浜さんにも「上手に植えることができました」とほめてもらえてうれしかったです。

浜さんや地域のみなさんのおかげで、どろ遊びから始まった田んぼの学習も、最後の脱穀で作業は終わりました。11月の収穫祭で1年間の作業を振り返りながら、感謝の気持ちを表せたらいいと思います。

## 耕作放棄地の再生で 将来の担い手を育成

四賀地区農業委員

市川 倍民

遊休農地・耕作放棄地の改善と並行し、学校教育で農業の仕組みや楽しさを教え、子どもたちが将来の担い手になってくれることを夢見ていました。

そんな折、四賀地区4小学校が統合して「四賀小学校」が開校となりました。松本市農業委員会としてお手伝いできることがないかと、かねてより脳裏にあった遊休農地・耕作放棄地を活用する「学校教育田協議会」の設立に向けて学校と協議をしていたところ、松本市社会福祉協議会、JA松本ハ

イランド四賀支所も参加したいとの申し出がありました。地域の皆が参加し、地域の子どもは地域で育てようとの思いで「学校教育田推進協議会」を設立し、事業の推進計画案が承認されて、いよいよ実行に移すことになりました。



田植えの様子



ハゼ掛け作業

まず、田の地主と利用権設定をし、その後、作付けの準備にかかりました。5年生との交流の場、第一号の田植え(手植え)に始まり、昆虫、病気、水田雑草、幅草刈りの重要性を学びつつ、楽しい収穫の日を迎える運びとなり、刈り取りは5年生全員と協議会メンバーも参加して手刈りに挑戦しました。ハゼに掛け、脱穀をし、収穫感謝祭で餅つき大会をして楽しみました。収穫の喜びと自給自足の重要性を、子ども心にも感じ取ってくれたのでは、と期待しているところです。

見事によみがえった学校田を見て、農村集落は地域住民が結集して保護管理をすることが必要だと、過去を反省したのでした。